

◎景気ウォッチャー調査[2020年6月]

2020年6月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を19.5ポイント上回る38.3となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「全国の緊急事態宣言解除後、来客数が増加している。休業中のアパレルが前倒しでセールを行っていることもあり、20～40代の若い客を中心に週末はにぎわっている。」(百貨店)、「特別定額給付金が支給されてから高額商品を購入する客が増加している。」

(家電量販店)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を22.7ポイント上回る43.8となった。

企業動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスへの対応で新規にオンラインショップを開設したいと考える客が増加しているため、ネット通販の需要が高まっている。」(輸送業)、「新型コロナウイルスの影響で受注が伸び悩んでいるが、医療、介護、飲食、観光業など特定の業態を除くと商談件数は持ち直している。」(通信業)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を15.5ポイント上回る28.7となった。

雇用関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「停滞していた採用活動が徐々に再開し、6月になり移動機会が増え、新たな求人の引き合いが発生するなど、少しずつではあるが、景気は上向きかけている。」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を7.3ポイント上回る20.6となった。

	6月	5月	前月差
合計	38.3	18.8	19.5
家計動向関連	43.8	21.1	22.7
企業動向関連	28.7	13.2	15.5
雇用関連 (参考値)	20.6	13.3	7.3

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を11.2ポイント上回る47.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「客の外出機会が増え、今までの自粛の反動も出てくるため消費が盛んになる。」(観光型ホテル)、「主力販売している車がフルモデルチェンジを迎え、新型コロナウイルスの終息とともに販売に勢いが生まれる。」(乗用車販売店)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を13.6ポイント上回る50.6となった。

企業動向関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの終息及び対策強化により、景気は回復する。」(鉄鋼業)、「7月からは取引先への訪問が可能となるため、取引が活発になる。」(通信業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を5.9ポイント上回る39.0となった。

雇用関連は、「やや悪くなる」、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスが終息傾向にあることで、企業活動が回復しつつあり、消費者の購買活動の悪化も底を打った感があるため、今後景気は良くなる。」

(新聞社)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を4.9ポイント上回る38.2となった。

	6月	5月	前月差
合計	47.0	35.8	11.2
家計動向関連	50.6	37.0	13.6
企業動向関連	39.0	33.1	5.9
雇用関連 (参考値)	38.2	33.3	4.9